

周南公立大学卒業生の定着に向けた調査・分析業務

調査結果報告書

2026年3月

01

調査・分析業務の
テーマと目的

02

調査結果から見える
若者の地元意識

03

まとめと方向性

04

これからの議論に向けて

01

調査・分析業務のテーマと目的

山口県内における若者の就職・定住意識について分析し、 対策や支援の方向性を検討する

STEP
01

既存調査の統合分析

STEP
02

周南圏域に就職を決めた学生へのインタビュー調査

STEP
03

1・2の結果を元に、対策や支援の方向性を検討

02

調査結果から見える若者の地元意識

山口県内における若者の就職・定住意識について分析し、 対策や支援の方向性を検討する



①既存調査の統合分析



②周南圏域に就職を決めた
学生へのインタビュー調査

①既存調査の統合分析

分析に使用した調査

- 若者の就職意識・中小企業の就職意識に関する調査（梅光学院大学,2023年）
- 人手不足の状況および多様な人材の活躍等に関する調査（徳山商工会議所,2024年）
- 進路・定住に関する意識調査（周南市,2023年）
- 移住・定住に関する意識調査（周南市,2023年）
- 学生を対象とした就職意識に関するアンケート調査
（山口県労働者福祉協議会・山口県労福協政策研究委員会,2023）

①既存調査の統合分析

1. 若者の意識

山口県（あるいは周南市）へのイメージ

- ”田舎”というイメージ
(交通の便が悪い、遊ぶところがない等)
- 目指す職種がない（企業情報が届いていない）

中小企業への評価

- ポジティブ：人間関係の良さ、転勤が少ない
- ネガティブ：給与・待遇への不安

就職先を選択する際に重視していること

- 給与が良いこと
- 安定性（公務員人気）
- ワークライフバランス、転勤の有無
- 育児・介護の両立支援

✓ 安定・生活重視
✓ 挑戦や成長よりも
安心感・待遇

地域に求めること

- 交通の便
- 物価の安さ
- 都会へのアクセス
- 遊ぶ場所・イベント

✓ 利便性
✓ 余暇環境の乏しさ

2. 中小企業の現状

深刻な人手不足

- 調査回答企業の7割超が人手不足
- 非常に深刻な状況と認識
- 8割は賃上げを実施している

採用の課題

- 現場スタッフ・技能職の不足が最も深刻
- 中途採用への依存度高まるが、希望通りの採用ができない
- 高卒新卒の採用難（約7割が希望した採用ができず）

山口県内における若者の就職・定住意識について分析し、 対策や支援の方向性を検討する



①既存調査の統合分析



②周南圏域に就職を決めた
学生へのインタビュー調査

②周南圏域に就職を決めた学生へのインタビュー調査

対象者：周南圏域の事業所、行政から内定を得ている4年生8名

	学部・学科	出身地	就職先の業種
1	経済学部現代経済学科	四国地方	公務員
2	経済学部現代経済学科	四国地方	公務員
3	経済学部ビジネス戦略学科	九州地方	商社、卸売業
4	経済学部ビジネス戦略学科	九州地方	公務員
5	福祉情報学部人間コミュニケーション学科	中国地方	商社、メーカー
6	福祉情報学部人間コミュニケーション学科	中国地方	社会福祉法人
7	福祉情報学部人間コミュニケーション学科	中国地方	医療機関
8	福祉情報学部人間コミュニケーション学科	関東地方	自動車販売業

若者たちの心を掴んだのは、 周南市の「ヒト」・「コト」・「ほどよさ」

人とのつながり

- よさこいサークルでの県内チームとの交流継続
- ボランティア・スポーツ活動での役割と居場所

「後輩の面倒を見てほしいと言われて。ここでのつながりを大切にしたい」

ちょうど良いまちの魅力

- 都会でも田舎でもない「ほどよさ」
- 新幹線停車、広島・博多へのアクセスの良さ
- 買い物がしやすい、実家との程よい距離感

「都会は遊びに行く場所。暮らすのはここがちょうど良い」

仕事と趣味の両立

- ワークライフバランスを重視し、推し活やスポーツ観戦などとの両立が可能

「推しのアイドルグループがいて、周南市からならライブにも行きやすい。仕事と趣味の両立が可能」

生まれ育った地元や大都市（いわゆる都会）にも勝る
学生にとっての「心地よさ」が醸成される

03

まとめと方向性

3つの方向性

UIJターンの 受け皿づくり

- 大学4年間での地域との関わりが重要
- 居心地の良さや役割感を得られる経験

一度外へ出た若者が
”30歳前後”で戻ってき
たいと思える魅力を磨く

標準(スタンダード)の 再定義

- DX化や業務効率化による
「稼ぐ力」向上とセット
- 防衛的賃上げに留めない持
続戦略

柔軟な働き方や支援制度
は差別化要因ではなく、
標準装備

官民学の連携強化

- 地元情報に一括アクセスで
きるプラットフォーム
- 大学のまちなか機能展開
(若者が見える都市設計)
- ジェンダー文化の転換

情報の集約と統合的
なアプローチ

「ほどよいまち」という強み

「ほどよいまち」の 魅力を活かす

- 都会でも田舎でもない
ちょうど良さをアピール
- 新幹線停車、広島・福
岡へのアクセスの良さ
- 生活の利便性と自然の
バランス

情報プラットフォーム の構築

- 学生が地元企業の情報
に一括アクセス
- 企業単独では届かない
情報を統合的に発信
- 中小企業の魅力や改善
努力を可視化

まちなかでの 若者の可視化

- 大学のまちなか機能展
開による存在感向上
- 駅—大学—中心市街地
の回遊性向上
- 若者の交流・余暇の場
づくり

若年女性の流出は、地域の活力が失われる構造的問題

1

流出の構造的要因

- キャリア選択肢の不足：管理職・専門職への道が限られる
- ジェンダー不平等感：昇進機会や給与格差、固定的役割意識
- 両立支援不足：保育・介護環境や柔軟な働き方制度が不十分

2

地域文化の変革と啓発

「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）」に関する研修を義務化または強く推奨し、保守的な風土を改善する。

04

これからの議論に向けて

若者が「戻ってきたい」「住み続けたい」と思える魅力とは何か

調査から

若者は給与・安定・ワークライフバランスを重視し、利便性や余暇を楽しめる（充実させる）環境を望む

学生インタビューから

若者の定着の鍵は、

- ✓ 人との出会い・つながり
- ✓ 居場所と役割
- ✓ ほどよい生活環境

議論の方向性

UIターンを受け皿づくり
標準の再定義
官民学の連携強化